

上越市議会 各層との意見交換会 開催記録

一般財団法人上越市体育協会
× 市議会



【日時】 平成31年1月23日(木)
18時30分～20時30分
【会場】 上越市総合体育館

一般財団法人上越市体育協会 × 市議会

テーマ「学校部活動に対し地域スポーツクラブや競技団体がどうかかわっていくか」

意見・質問	
1	スポーツを考える会で三和中学校の部活について話し合い、人材バンクでバレーや柔道、野球の指導者を募り、活動支援金をもらい、部活支援をしているが、バレー・柔道・野球以外の部活は指導者がなかなか集まらないことが課題。
2	スキーの技術指導をしているが、こちらのコーチ陣は職業を持っているため、平日は顧問の先生に見てもらえないという状況であり、専門の指導者がいない。大会等もコーチが休みを取ってサポートしている。
3	小学校はスキー授業でオブザーバーの要請があり、都合のつく人がサポートしている。先生も来るが、コーチ陣に頼られているのが実情であり、かなり負担となっている。地元に残ってくれている育成会のOBが支えてくれている。
4	男子バレー部は市内に一校にしかない。小学生バレーはたくさんあるのに中学校にあがるとバレー部がない。女子バレーは、逆にどの中学にも部活はあるが、やはり専門の指導者が不足している。
5	スポーツ全体で上越市内の有望な子供らが、県外に100人単位で流出している。ジュニアアカデミーに選ばれた子が、校区の学校の部活がうまくいっていないため、市内の別の中学校に行くことを検討したが学校側から反対され、県外の中学に行ってしまった。
6	陸上は夜にナイターがないため練習時間が確保できない。冬は雪が降れば練習できず、雪が降らなくても管理人がいないためできない。こういった施設設備が充実していないということも市外に出る生徒が多い要因である。
7	1週間に一度学校側とも話をした中で進めているが、少子化により、部活数が減少していく。不公平感があるかもしれないが、市で学校ごとに特定競技を強化し、その特定競技をしたい子どもがその学校にスムーズに行ければ夢が膨らむ。スポーツは多様化しているので、自分のやりたいスポーツができるようになればいいのではないかなと思う。
8	部活は教育の一環であり、国のガイドラインや県の方針はあるが、市の方針が見えないので、取組が難しいのではないかな。方針がないからこそ、学校ごとに責任者の対応が違い、体育協会やスポーツクラブで具体的に話を進められない。また、学校の部活を抱えている中体連等も検討されているようであるが、まだ方針が見えない。
9	部活指導員制度を活用したいが、資格取得の問題と地域に人材がいるかという問題がある。外部指導者であればどのクラブでも対応できると思うが、国が言っている資格というのかなり厳しい。市の予算も見えてこない。制度的、財政的な裏付けが必要である。
10	空手道は日本スポーツ協会が発行する指導員資格、上級指導員といったような資格や競技団体の資格を市内でも一番持っている団体であるが、中学校に部活がない。子供たちから自分の学校でやってほしいと言われる。別の学校の授業で空手を行った時もなぜ自分の学校に来ないのかといわれる。そういった話をする機会設けてほしい。
11	空手道は部員がどんどん減っており、一つの学校でできないので3校くらいまとまってやっている。全ての学校をスポーツセンターに集め、部活としてできないかと提案してもなかなかできないと言われる。現在は、小・中・高一貫でやっているが、月1回しかできない。

意見・質問	
12	学校によってやり方も校長先生の考えも違う。アンケート調査等で上越市全体の話としては指導者が足りないということが分かるが、実際に校長先生と話をする機会があっても部活の指導者がいないので困っているという話は聞けない。学校にもよるが、学校側からの切実な話が伝わってこない。
13	部活動指導員の任用条件が厳しく、今の指導者を考えると教員免許も日本スポーツ協会の公認指導者の資格もないので、部活指導ができない。市が人材バンクを作ってもらえれば、教員を退職した方に声がけて、必要とされる中学校またはスポーツクラブに出向いてもらえればと思う。国・県・市で3分の1負担といった中で上越市はどれくらい出せるのかということが心配。
14	合併してから各区に格差があり、受け皿がない地区もある。そんな中総合型スポーツクラブが出てきたが、そこにも格差があり、ほとんど休眠状態のクラブもある。部活動を何とかするにはまずそちらを整理してほしい。お金の面で困窮していたり、クラブ員が減少していたりといった課題があり、部活動を受け入れるにはまずスポーツクラブや体育協会を充実させる必要がある。
15	各学校の部活指導者が全く足りていない。原因は、教員は部活動の顧問になりたくてなったわけじゃないという教員が多い。一方で、国や県の指針は部活動の指導がしたい先生にとってはあまりよくない。色々な先生、生徒がいてスポーツが嫌いな生徒も、指導したくない先生もいるからこそ地域のこういった組織が必要である。
16	学校の部活外でやっている生徒の生徒指導といった観点で問題があり、なかなか先生の言うことを聞かない子もいる。指導者の資質も大事と感ずるのである程度の資格はいると思う。資格がなくてもしっかりやれる方がいる一方、競技力の向上に偏る方もいる。人材確保と資格のバランスは難しい課題である。
17	トップアスリート育成に必要なのは指導者を含めた環境である。小学校から中学校上がるときに、やりたい種目によって学校選ぶという形が作れば良いと思う。一つ核になる活発な部活があると他の部活も活性化し学校が活性化する。いじめ撲滅にもつながる。
18	競技力の向上には、競技団体の組織の充実と会員の増員が必要である。
19	上越市から子ども達が出て、戻ってこないが、その中に未来の指導者がいると思う。そういった人達が上越市にとどまるような場を考えてほしい。
20	総合型スポーツクラブは、職員で部活を見ているので、スポーツで飯を食っていきいたい若者たちを雇って週2回くらい基礎トレを任せられたら良いと思う。スポーツクラブへの支援といった施策が必要ではないか。